



◀説明に耳を傾ける参加者



健苗育成に向けて水稻育苗講習会を開催

営農企画課

営農企画課では稲作作業の本格化に向け、育苗技術向上や栽培の注意点などを説明する、能代地区水稻育苗講習会を3月22日に開きました。能代地区の生産者約40人が参加し、「水稻育苗管理の基本的技術」や「高密度播種苗の栽培技術」について説明を受けました。

地域振興局普及課の田口氏は、田植え予定日と苗の種類からさかのぼって播種量、播種日を決めることに触れ「作付面積が大きい場合や数品種を組み合わせると作付けする場合は、作業計画をしっかりと立て、極端に田植えが遅れないようにしてもらいたい」と呼び掛けました。

また、ヤンマー農機販売(株)の担当者は、水稻栽培の省力化とコスト削減に向けた取り組みとして、農林水産省の最新農業技術・品種2016に選ばれた「密苗」について紹介しました。密苗は、通常育苗箱当たり乾籾で100~120gの播種量を250~300gと高密度に播種し、その苗から慣行同様に3~4本ずつ取り移植を行うことで、苗箱数や資材費、作業時間などの大幅な省力化とコスト削減が狙われるということで注目を集めています。当JA管内で昨年度は、5か所で密苗栽培試験を行っており今後の普及拡大に向けて検証していきます。

春作業へ向け新型農機具がずらり

農業機械課

JAあきた白神主催による「農業機械展示会」が3月22日と23日、カントリーエレベーター特設会場で開かれ、2日間で約230人の来場者で賑わいました。

会場にはメーカーごとに田植機やトラクター、播種機等を多数展示。来場者はJA職員や各メーカー担当者の説明を熱心に聞きながら、農機具の性能を確認していました。また、農作業安全講習会も行われ、農業機械の点検や手入れの方法、そして安全に使用するための留意点が説明されました。担当者からは「機械はより安全に使用できるようになってきているが、事故の無いよう安全に留意して農作業に励んでもらいたい」と呼び掛けました。



▲農機具の説明を受ける来場者



▲旬の山うどんを味わってもらいました

店頭販売で旬の「白神山うどん」を味わってもらう 山うどん部会

山うどん部会（桜田和浩部会長）は3月3日、「白神山うどん」の販売促進キャンペーンを秋田市と湯上市のスーパー3店舗で行いました。キャンペーンには部会員やJA職員、ミスフレッシュが参加し、店頭にて「白神山うどんスティック」などの試食会を行いPRしました。

当管内の山うどんは県内随一の産地として、県内の量販店をはじめ関東、札幌、大阪など各市場に出荷されており、生産者で構成される山うどん部会も、年に数回、県内外のスーパーなどで販促活動に取り組み、消費拡大を図っています。販売額1億2500万円の達成を目指し、白神山うどんの出荷は4月中旬まで続きます。

